

■令和5年9月6日 就任記者会見内容

- 1 日 時 令和5年9月6日（水）11：00～11：45
- 2 場 所 市役所本庁舎3階第1委員会室
- 3 出席者 ○市長、市長公室長
○酒田記者クラブ10社（朝日新聞、読売新聞、河北新報、山形新聞、
庄内日報、毎日新聞、NHK、山形放送、テレビユー山形、さくらんぼ
テレビ）
○酒田エフエム放送（記者クラブの承認により出席）

■市長挨拶

市長／本日、酒田市長に就任いたしました、矢口明子と申します。これからどうぞよろしくお願いいたします。

これまで、市長に就任することになってどのようなお気持ちですかと、何度も聞かれましたけれども、本当に、本日は一番大変重責、責任の重さを感じております。これまでは、市役所に来れば丸山前市長がいらっしゃいました。本当に安心感がございました。それがもう、今日は丸山前市長が市役所にいらっしゃらないということで、本当に責任の重さを感じております。

丸山前市長におかれましては、2期8年、本当に大変な時期の8年だったと思います。駅前再開から始まり、旧割烹小幡をどうするかという問題、そして、山居倉庫、商業跡地につきましても目途をつけてくださいました。そのような酒田の懸案に目途をつけてくださった方だと思います。特に2期目は、新型コロナウイルス感染症の対応という、誰も経験がなかったことがなく、正解を誰も教えてくれないという状況の中で、見事に酒田市民の生活を守ってくださいました。本当に心から敬意を表しております。

その上で、私のこの4年間は先ほど職員訓示でも申しましたように、人口減少をできる限り緩やかにしながら、人口がたとえ減少したとしても、すべての市民が豊かに安心して暮らせるまちをつくる、これに尽きると思っておりますので、職員の皆さんにも早めにそれをお伝えして、ここから先はぜひ、職員一人一人が考えて実行して欲しいという気持ちで、ただ今訓示をして参りました。

これから、私の掲げた旗印、さらには市民の方或いは地域の企業の皆様にも、今日のような形で丁寧にお伝えしてご意見をいただきたいというふうに思っております。私が掲げたことは、私1人、或いは行政だけでできるものではないということを今日お伝えしたつもりでしたけれども、市民の皆様、地域の企業の皆様のご理解をいただきながら、こんなに資源の豊かなすばらしいまちはないと思っておりますので、一緒に目的を共有して進んでいければと思っております。

報道各社の皆様におかれましても、ぜひ酒田市が目指す方向性、或いはなぜ、そういう方向性を目指しているのかということ、市民の皆様にご丁寧に伝えていただけたらありがたいですし、また、市民からこういうような声があるよ、ということも、どんどんお知らせいただけたら大変ありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

■代表質問

1 東北公益文科大学の公立化、アランマーレのホームアリーナ整備について

記者／基本的に丸山市政を継続されるということで、その中で自らの独自性を加えていくというような話だと思いますが、具体的項目として、公益大の公立化とアランマーレの体育館問題について、現時点でのお考えと取り組みの方針をお伝えいただければと思います。

市長／まず、公益大の公立化についての目的ですが、なぜ公立化を進めたいかということを変更して確認いたしますと、やはり公益大の経営を安定化させること、そして大変な時代ですが、ぜひとも何とか、ずっと1,000人の学生さんを抱える大学であり続けて欲しい、存在し続けて欲しいということに尽きると思います。

なぜ、公益大が酒田市に存続して欲しいかと言えば、もちろん1,000人の若い人たちがいる、それによる消費の増、そしてアルバイトなどで働いてくださっている。大学生がいなければ成り立たないような事業者さんもいらっしゃるのかな、というふうに想像もしております。そういう経済的なことだけではなくて、先生方からは、いろいろな分野で政策提言をいただいております。新聞で報道してくださっていますけれども、いつもご提言をいただいております。もし、大学がなければ、電車や飛行機に乗って、よその大学の先生にお願いに行かなければいけないところを、本当に気軽に話や相談ができます。それから、学生さんが地域で大変活躍してくださっています。今回、選挙の時に地域を回りまして、本当に学生さんに来て欲しいのですがどうしたらいいだろうか、というご相談を何件も受けました。

そのように、学生さんが来て地域の活動をしてくださっていて、それをすべての地域でやりたいと皆さんが思っているようですので、何としても公立化によって経営を安定化させて、存続をもちろんしていただくということが目的です。

1つ、さらに課題があるとなれば、公益大を卒業した方がもっと庄内地域で就職をしてくれると大変ありがたいということがあります。それが、まだ達成できていない目標の1つだと思っております。

そこで、私が先ほど申し上げましたように、公益大は卒業生が全員プログラミングの技術があります。かつ、地域の課題をどうやったら解決したらいいかということ学んできた学生です。ぜひ特に情報系の企業を酒田に集積させて、こんなすばらしい公益大の学生がもっと酒田に就職するというようなサイクルを作っていきたいです。また、IT企業だけではなくて、今申し上げた公益大で学んできたことというのは、どの地元企業でも必要とされることだと思いますので、地元企業への就職、地元企業にはぜひ、公益大の学生さんを取れる企業になって欲しいなというふうにいつも思っております。

それから、公益大の安定化策としましては、ぜひ社会人に入学していただきたいです。大学というのは、18歳の若い人が通うだけではないというふうに思っておりまして、特にこの少子化の時代、18歳人口だけを相手にしていても大変です。

欧米などでは、大学は特に社会人が常に入り直すところです。大学は生涯3回行くべきだと言っている人もいますようですけれども、そういう場所だと思っております。特に、こ

の地域は身近に大学があります。社会人が1科目単位で履修もできます。そういったことをもっと大学の方もPRして、社会人の受け入れをもっと進めていくと、「公益大って子供たちのためだけじゃないんだね」ということで、公立化に対する市民の理解も深まると思います。ぜひ、それは、大学の役員にもなる予定だと思いますので、そういう場で発言していきたいというふうに考えております。

次に、アランマーレのアリーナについてですが、なぜ体育館を作りたいかと言えば、5,000人の人が酒田市に来る、大変な経済効果ですね。

ですから、ぜひ実現したいのですが、そのためにはコストがかかります。9万6,000人の酒田市だけでは大変厳しいということで、今、全方位で市内でもプロジェクトチームを作って、アランマーレさん、プレステージ・インターナショナルさんとも情報交換し、先進的な事例も調査しながら、あらゆる角度から体育館をどうしたら建設できるだろうかということを検討している、というふうに丸山前市長から引き継ぎを受けております。

それを私もきちんと自分なりに整理をした上で進めていきたいというふうに思っております。

記者／公益大の公立化については、今、県とテーブルについてその方向性を協議しているという段階ですが、矢口市長がやはり公益大の教授であったということと、県内初の女性の首長ということで、吉村知事も同じですけれども、その辺が強みになって、より前に力強く進んでいくのではないかな、というふうに市民は感じているのですが、その辺についてはいかがでしょうか。

市長／それはそうですね。私ももちろん大学の出身ですし、特に先生方、それから事務職員の皆さんとも個人的に面識があって、いつでも電話して話ができる関係にもございます。

ですので、そういう意味では、本当に目的を共有して力強く進めていくことができるのではないかと思いますし、吉村知事も、以前、副市長時代からも市長の代理でご一緒させていただく機会もございましたので、きっと話是可以かなというふうに思っております。ぜひ進めていきたいと思っております。

2 副市長及び教育長人事について

記者／今日から市長に就任されたということで、副市長人事について、もし具体的に固まっていることがあれば、お聞きしたいです。

市長／先ほどの訓示でも、もう申し上げましたけれども、安川副市長、そして鈴木教育長は続投させます。

その理由としましては、安川副市長とは、今日お話したような、私が掲げる酒田市の目指すべき方向性を共有できておりますし、私が副市長をしていたときから大変適切なアドバイスをいつもくださる方でした。そして、行動力もありますね。サンロクを立ち上げたという行動力もある。それから、何より私が今日お話しした産業振興の分野、そこに一番明るい方だということで、右腕としてぜひ働いて欲しいとお願いしております。

鈴木教育長につきましても、教育長の教育観には副市長時代からいつも共感しております。

す。教育長のお話を聞いて、同じだなあと、ぜひ酒田をそういう学校にして欲しいと思っておりました。もちろん、2人とも続投でいきたいと思っております。

記者／2人の続投を決められたのは、時期的にはいつぐらいからでしょうか。

市長／当選が決まってからです。もちろん決まる前からいろいろな方からご意見をいただいたりしております。その時はまだ当選できるか分かりませんでしたので、そうですかということでしたけれども、そういったご意見を踏まえて、当選した後に改めていろいろな方にご相談しながら決めたということでございます。議会の各会派にも説明をもうすでにしております。

■フリー質問

1 市議会との関係性について

記者／選挙の際、矢口新市長の応援の体制は、議会の中でもほぼオール与党のような感じで支援されていたかと思えます。今後、議会との付き合い方、非常に今のところ客観的に見ると、やりやすいのかなと思えますが、一方で、議会のチェック機能が果たして働くのかという懸念も市民の方はあると思えます。就任後の議会との付き合い方はどのように考えていらっしゃいますか。

市長／新聞報道で出ていましたが、議会の方も同じ質問をされて、それは政策の中身の是々非々だという回答が多かったように拝読しておりました。私も市民のために、何がいいのかという観点から議論して決めていければと、同じ思いでおります。

ただ、繰り返しですが人口が減ります。それを緩やかにしながら、いかに安心安全な暮らしを守っていくかということ、応援いただいている時も繰り返し言うておりました。それを知った上で応援してくださっていますので、一番大事なところを合意したということで、では、どういう手段、政策がいいのかは、ぜひアイデアを出し合って意見交換していければと思っております。

2 初登庁の服装について

記者／当時、候補としての矢口新市長は、選挙期間中、白いスーツにオレンジのインナーが印象的だったのですが、今日はブルーのインナーだったので、どのようにして服装を選ばれているのかお聞きします。

市長／服はあまり持っていないので、ほとんど同じ洋服を着ていますけれども、今日はきちんとした紺色の方がいいかなと思って、この色にしました。

3 副市長及び教育長人事について

記者／副市長、教育長は続投ということになりましたけれども、具体的に続投をお願いした期日を、差し支えなければ、いつぐらいに打診されて、お2人から続投しますとお話をいただいたのかを教えてください。

市長／期日というのはありませんけれども、当選証書をいただいて、決まったときから昨

日までの間のどこかということでございます。

記者／副市長人事の件で、改めて重ねてお伺いします。市長と副市長がどちらも酒田出身者でないというのは、多分、酒田市始まって以来だと思えるのですけれども、一部市民には、2トップが酒田市民ではないけれど、大丈夫なのだろうかというような、直接聞いたわけではないが、そういう意見もあるかと想像されるのですけれども、その辺について一言いただけますか。

市長／実は私に直接そういうご意見もいただきました。そのようなご心配があるのは当然のことだろうというふうに改めて思いました。私としては、この人事はもちろん最終的にこれがいいということで決めましたけれども、そこは本当に注意していかなければいけないと思いました。私は酒田市民23年やっておりますけれども、確かにここで学校に行ったわけではございませんので、そのような生まれ育った酒田市民の気持ちをちゃんと理解できているのかというところは、職員がいます。そこは安心と考えます。ですから、逆に言えば、職員の話をよく聞くこと、地域の方の話をよく聞くこと、これを忘れないようにしようというふうに改めて思っております。

4 市長にとっての市役所職員の存在とは

記者／丸山前市長が退任されるときに、市役所の力という言葉が出てきて、今日のプレゼンテーション形式のような形で訓示も行われましたけれども、新市長にとって、市役所職員、市役所とはどういった存在なのか、お聞かせいただければと思います。

市長／市役所の職員は酒田一の頭脳集団と申しますか、民間企業の方が誤解をして気を悪くされてはちょっと困るのですが、やはり、市民の方は、市役所は市民のことを常に考える地盤、大事な組織であって欲しいということが率直な願いだと思います。

時々、そうではないようなことが漏れ聞こえ、批判を受ける場合がありますが、もっと立派で優秀な職員であって欲しいというのが、本来の市民の願いだと思いますし、私もそうあるべきだと思っております。職員は大変頼りにしております。一番優秀で、政策をきちんと考えられる人達だと思っております。

5 県内市町村初の女性首長について

記者／記録によりますと、矢口市長は、県内の市町村のトップとしては、女性初になられるわけですが、その点で何か意識されるということはございますか。

市長／特に意識はしていないのですが、あまり女性らしいことが得意ではない方なので、ちょっとそういうことを期待されると困るなと思います。例えば、先ほどのお洋服のことですとか。市民の方からも言われました、山形県知事さんはいつも素敵でいらっしやると。私もそう思います。ですから、それが市民の皆さんがまず見るところだと思うので、苦手なものですから気を付けなければと、人に不快感を与えないというところは、守っていかないといけないと思って気にかかっております。

6 女性管理職の登用について

記者／今後、市役所内で女性の管理職などの登用を、例えばこれから増やしていきたいなど、そういったお考えなどはお持ちなのでしょうか。

市長／市役所で大分女性の部課長が増えました。これはひとえに丸山前市長のおかげなのです。私の力だと思っている方もいらっしゃるかもしれませんが、最終的には丸山前市長のお考えです。まず、私を登用したというのが丸山前市長ですからね。もともと、そういう女性、男性かかわらず、能力のある人を登用したいという公平なお考えをお持ちの方でした。

ですから、丸山前市長のおかげですけれども、私も理想的には男女半々が理想だと思っております。なぜなら、社会が半々だからです。もちろん、LGBTの方もいらっしゃいますけれども、それも含めて、社会構成員の比率をできる限り反映させていくということは、市民の意見を政策に反映するために、大変重要な要素だと思っておりますので、そういう意味で半々であるべきだと思います。

ただ、そこに急にいけないのだとすれば、能力主義でいけば、近い将来半々になるのではないかと思っております。

記者／それは管理職ということでよろしいでしょうか。

市長／そうですね。確認はしておりませんが、採用試験で筆記試験と面接で、半分或いは半分以上が女性の方かもしれません。ですから、若い方の方はそんなに心配はしていません。

7 電気料やガソリン代の高騰に対する対応について

記者／今、大変ガソリン代が高騰していたり、電気代は10月に東北電力が値上げを発表されたりしてしまっていて、市民生活、企業活動ともに今、大変困難をきわめている状況だと思います。これは酒田市に限らずではある話ですけれども、当面の対処はどのようにしていきたいかと思えますか。

市長／今年の夏は冷房がなくては生きていけない状況の中で、本当に、皆さんどんなふうにも暮らしているのだろうか、或いは地方都市の市民にとりましては、ガソリン代の高騰も、都会の人では想像もつかないぐらいの影響があるということ、大変心配しながら過ごしております。

政府の方でも当然ガソリン代のこと、或いは電気代について、いろいろな政策が打たれていると思っておりますので、それを見ながら、酒田市として必要なことは当然行っていきたいというふうに考えております。

8 LGBTの取り組みについて

記者／酒田市では今年度からパートナーシップ制度を導入されています。もちろん、副市長時代からかかわっていらっしゃるのとお聞きしているのですが、今度の週末には、酒田市内の高校生たちが主体となって「虹をかける会」と一緒に「庄内レインボーマーチ」と

いうイベントを行うということをお聞きしています。そういったLGBTの取り組みを、今後どのようにされていきたいと思いませんか。

市長／これもよくいい意味で誤解してくださるのですが、パートナーシップ制度を認めたのは私が副市長を辞めた後ですね。丸山前市長の英断を私も新聞で拝見しておりました。

ですので、丸山前市長のご判断だったと思いますが、それは新聞報道によれば市民アンケートの結果、そういう制度を認めるべきだという声が多かったから、そういう判断をしたのだということで、全くその通りだと思います。したがって、市民の意識もそういう制度があるべきだという人が多いという状況ですから、当然、市も認める。そういうスタンスでいきたいと思いませんか。

記者／酒田市内で、そこまで多くの方が利用されている制度ではないかもしれませんが、ただ、今後もそういう方々はもちろんいらっしゃるの、市として対応していきたいということでしょうか。

市長／制度は作りましただけでも、もし、宣誓をしている方が少ないのであれば、どういった理由なのかを確認し、何か取り除くべき障壁があれば除去し、そういった人たちも安心して暮らせるまちにするために、担当課に状況を確認したいと思いませんか。

9 再生可能エネルギーへの取り組みについて

記者／今、遊佐沖で風力発電を建てる計画があります。景観の問題であるとか、漁業の影響であるとか、そういった市民の声が出ているとは、思いますが、現時点での酒田市としてのスタンスは、再生可能エネルギーの方もやっていくかということをお話お伺いできればと思います。

市長／酒田市で再生可能エネルギーを推進していきたいという理由は、やはり、産業振興、経済的効果というところであり、私は一番力を入れております。もちろん、地球温暖化の防止というのもあるのですが、それよりも酒田市民の生活が潤うことというのが酒田市長としては一番だと考えております。ですので、そのような効果が出るような形で点検をしながら進めていきたいと思っております。

当然、景観のことを心配されている方、漁業の方も市民です。しっかり意見を聞きながら、どうしたら心配を取り除けるのか、ということを考えながら、進めていきたいというふうに考えております。